

# 飯山満川治水事業再評価

平成18年2月21日  
海老川流域懇談会事務局

## 再評価がうまれたわけ？

- 長引く景気低迷
- 公共事業予算の減少
- 公共事業への関心の高まり
- 情報の透明性の確保
- 国民の環境回帰指向

- ・ 環境への影響は？
- ・ 時代のニーズに合うか？
- ・ 他の方法はないの？
- などの疑問に応える

そのため、国土交通省の事業について  
公共事業を評価する仕組み



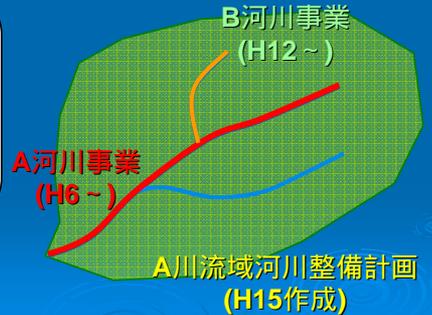
## 時間とともに変化する社会ニーズ



**[対象]** 事業採択後5年経過して未着工  
事業採択後10年経過して継続中  
再評価実施後5年経過した事業

## 計画は今、でも、事業は昔から・・・

なぜ、河川整備計画をつくったばかりなのに再評価するの？



## 再評価で事業を確認する必要あり

事業は、河川整備計画が決まる前から行われてきたんだ。と、言うことは・・・

事業着手後、一定期間経過した事業は、やはり見直すべき点があるのか確認する必要がある。



## 再評価のルール（千葉県版）

**[誰が]** すべての公共事業について  
(千葉県国土整備部所管国庫補助事業再評価実施要領)

- 1) 河川事業・ダム事業であり、
- 2) 河川整備計画策定のための流域懇談会がある場合



評価監視委員会

地域と密接な関係  
計画策定段階から議論



流域懇談会

## 再評価のやり方

### [流域懇談会の視点]

### [評価監視委員会の視点]

事業の進捗状況  
社会経済情勢等  
コスト縮減・代替案の可能性  
事業の投資効果  
河川整備計画との整合  
地域への恩恵

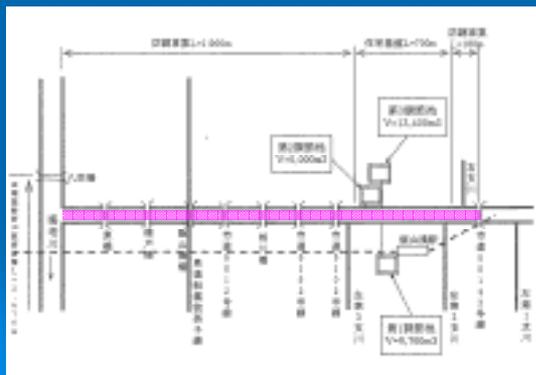
[継続]

審議

[中止]

流域懇談会の結果に基づき河川管理者が判断

## 今回の再評価対象事業は？



### > 視点 事業の進捗状況

第1調節池が既に完了しており、事業全体の進捗率は31.7%。

### > 視点 社会経済情勢等

流域内に鉄道駅が出来たこと起因する宅地開発や船橋市で進めている土地区画整理事業によって都市化が進行している。

### > 視点 コスト縮減・代替案の可能性

調節池や学校の校庭等で貯留による流出抑制対策を図っている。また、事業で発生する掘削残土の有効利用を図るなどコスト縮減に努めている。

### > 視点 事業の投資効果



飯山満川浸水想定区域図(50mm/hr規模)



想定氾濫区域 33ha  
想定氾濫区域内家屋 552戸

## 総便益の算定

50mm/hr規模（確率規模1/8.3）の洪水で発生が想定される浸水区域内

- ・ 浸水面積33ha
- ・ 浸水戸数552戸

の被害額を算出すると、26.4億円。

これが、事業完了後、50年間にわたって効果を発揮するものとして累加すると、改修による総便益は507.7億円。

**総便益(B) 507億円**

## 総費用の算定

現在の価格で評価した建設費（これまでの建設費 + 今後の建設費）は、141.9億円。

現在価値化した建設費とその後の50年間にわたる維持管理費を加味すると総費用は、142.9億円。

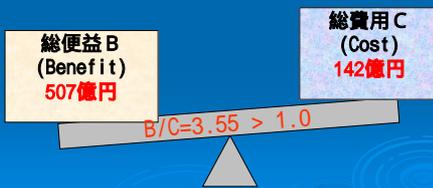
**総費用(C) 142億円**

## 事業の投資効果(B / C)

今回の事業の総便益 **B = 507億円**

それに要する総費用 **C = 142億円**

よって、**B / C = 3.55 > 1** ……OK



注：費用便益比は、防災調節池事業、住宅地関連公共施設等総合整備事業による総費用と総便益より算出した。

## 事務局提案

**視点 事業の進捗状況**

早期完成を目指す

**視点 社会経済情勢等**

事業の必要性有り

**視点 コスト縮減・代替案の可能性**

現計画案が妥当

**視点 事業の投資効果**

費用対効果 (B / C=3.55) より、効果大

よって、事業を「**継続する**」のが妥当と判断。

さらに、付け加えると、

**視点 河川整備計画との整合**

現在の事業は、「海老川水系河川整備計画（案）」に沿って進められています。

**視点 地域への恩恵**

河川改修により、水と緑のオープンスペースとして、市民がやすらぎを感じられる空間となります。